

平成28年度 山形県病院事業会計決算の概要

平成29年7月
病院事業局

1 決算の概況

- 平成28年度の病院事業会計決算は、総収益が372億500万円、総費用が387億5,100万円となり、15億4,600万円の純損失となった。
- 経常収益は368億4,200万円となり、前年度から10億300万円減少した。
 - ・ 医業収益……入院収益が増加した一方、外来収益の減少等により2億8,500万円の減少
 - ・ 医業外収益……一般会計繰入金、長期前受金戻入の減少等により7億1,800万円の減少
- 経常費用は387億800万円となり、前年度から10億8,800万円減少した。
 - ・ 医業費用……給与費、材料費、減価償却費等の減少により10億8,900万円の減少
 - ・ 医業外費用……ほぼ前年同額となり、100万円の増加

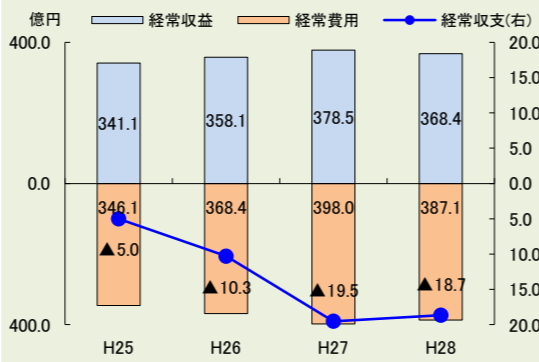
(単位:百万円)			
	28年度	27年度	対前年
総収益 A	37,205	37,875	▲670
経常収益 C	36,842	37,845	▲1,003
医業収益 E	30,167	30,452	▲285
医業外収益	6,675	7,393	▲718
特別利益 G	363	30	333
総費用 B	38,751	39,845	▲1,094
経常費用 D	38,708	39,796	▲1,088
医業費用 F	37,043	38,132	▲1,089
医業外費用	1,665	1,664	1
特別損失 H	43	49	▲6
医業収支 E-F	▲6,876	▲7,680	804
経常収支 C-D	▲1,866	▲1,951	85
特別損益 G-H	320	▲19	339
総収支 A-B	▲1,546	▲1,970	424

主な増減の要因

入院収益+135、外来収益▲379
一般会計繰入金▲397、長期前受金戻入▲319
H26会計基準の変更に伴う影響額+334

給与費▲271、材料費▲307、減価償却費▲562

【参考①】経常収支の推移



【経営改善の取組】

病院事業局では、平成29年3月に改定した中期経営計画の目標を達成するため、収入増加・支出節減・業務効率化に取組む「病院事業会計V字回復プロジェクト」を推進し、経営改善に向け全職員が一丸となって取り組んでいます。

2 収益の状況

(1) 入院

- ・ 入院収益は、患者延数が減少した一方、診療単価が上昇し、全体で1億3,500万円増加した。
- ・ 患者延数は、平均在院日数の短縮等により、こころの医療センターを除く3病院で減少し、全体で6,204人減少した。
- ・ 診療単価は、中央病院における地域医療支援病院の承認及びDPC II群病院への復帰の他、全病院で新たな加算の取得に努めたこと等により、全体で1,044円増加した。

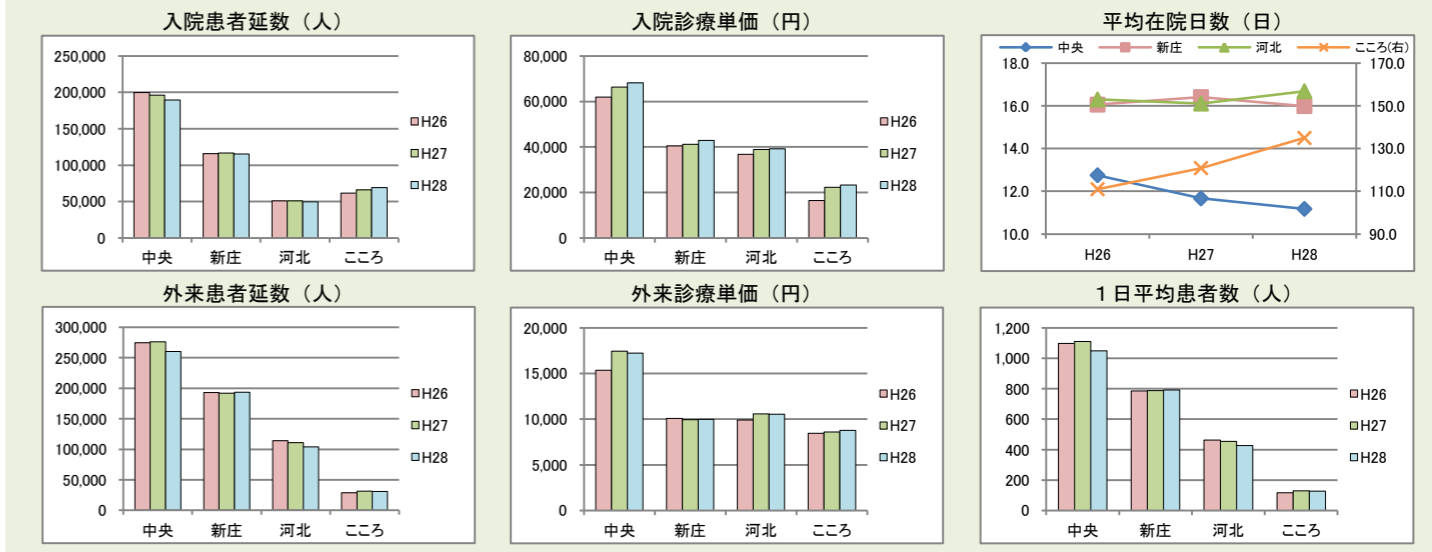
	入院収益(百万円)		患者延数(人)		新患者数(人)		平均在院日数(日)		診療単価(円)	
		対前年		対前年		対前年		対前年		対前年
中央	12,932	▲107	189,737	▲6,668	15,555	40	11.2	▲0.5	68,159	1,772
新庄	4,962	157	115,535	▲1,122	6,812	133	16.0	▲0.4	42,951	1,765
河北	1,939	▲48	49,521	▲1,565	2,806	▲179	16.7	0.6	39,145	244
こころ	1,607	133	69,126	3,151	510	▲44	134.9	14.1	23,251	902
全体	21,440	135	423,919	▲6,204	25,683	▲50	15.5	▲0.2	50,577	1,044

(2) 外来

- ・ 外来収益は、患者延数及び診療単価の減少により、3億7,900万円減少した。
- ・ 患者延数は、逆紹介の推進等により新庄病院を除く3病院で減少し、全体で21,875人減少した。
- ・ 診療単価は、中央病院における高額医薬品の院外処方への切り替え等により投薬収入が減少し、全体で145円減少した。

	外来収益(百万円)		患者延数(人)		一日平均患者数(人)		診療単価(円)	
		対前年		対前年		対前年		対前年
中央	4,489	▲329	260,084	▲15,987	1,049	▲62	17,258	▲195
新庄	1,934	25	193,529	1,356	793	6	9,993	61
河北	1,097	▲76	104,118	▲6,744	427	▲28	10,541	▲35
こころ	271	1	30,825	▲500	126	▲2	8,793	178
全体	7,791	▲379	588,556	▲21,875	2,395	▲87	13,238	▲145

【参考②】患者数・診療単価等の推移



3 費用の状況

- ・ 給与費は、給与改定等の影響で給料・手当・法定福利費が3億800万円増加した一方、退職給付費が6億200万円減少したこと等により、全体で2億7,100万円減少した。
- ・ 材料費は、高額医薬品の院外処方への切り替えや後発医薬品の採用促進により、薬品費が2億6,300万円減少した。また、診療材料費は、手術の償還材料の減少やコンサルタントを活用した価格交渉・共同購入等により4,100万円減少し、全体で3億700万円減少した。
- ・ 経費は、燃料費や光熱水費の節減に努めたこと等により、全体で5,700万円減少した。
- ・ 減価償却費は、中央病院の空調・電気設備の償却が完了したこと等により、全体で5億6,200万円減少した。

(単位:百万円)			
	28年度	27年度	対前年
医業費用	37,043	38,132	▲1,089
給与費	21,225	21,496	▲271
材料費	7,588	7,895	▲307
経費	5,112	5,169	▲57
減価償却費	2,647	3,209	▲562
資産減耗費	193	93	100
研究研修費	278	270	8
医業外費用	1,665	1,664	1
特別損失	43	49	▲6
合計	38,751	39,845	▲1,094

主な増減の要因

給与改定等+308、退職給付費▲602
薬品費▲263、診療材料費▲41
光熱水費▲36、燃料費▲28
(中央)空調・電気設備の償却完了
(中央)ガンマナイフの除却

4 資本的収支の状況

- 中央病院では、ナースコール及び院内PHS設備の改修工事により、医師・看護師等の連携がより強化され、これまでよりも迅速な対応が可能となった。また、治療可能領域の拡大や治療時間の短縮による患者負担の減少を図るため、定位脳放射線治療装置（ガンナイフ）を更新した。（※装置稼働は29年度から）
- 新庄病院では、落雷等の障害による電力停止が生じた場合に医療行為への影響が発生しないよう、老朽化したVCB（事故電流を遮断する真空遮断器）の更新等を行った。
- 河北病院では、療養環境向上のため外来2階トイレ及び車椅子トイレの改修工事を実施したほか、MRI装置を更新し、これまでよりも検査の待ち時間を短縮するとともに、より高度な診察が可能となった。
- こころの医療センターでは、総合医療情報システムの整備が完了し、医療安全の向上やより質の高い医療の提供が可能となった。

(単位:百万円)

	28年度	27年度	対前年
資本的収入	3,353	3,435	▲82
企業債	1,377	1,387	▲10
出資金	76	73	3
負担金	1,900	1,970	▲70
固定資産売却代金	0	0	0
その他資本的収入	0	5	▲5
資本的支出	4,911	5,075	▲164
建設改良費	1,418	1,442	▲24
企業債償還金	3,493	3,633	▲140
差し引き	▲1,558	▲1,640	82

■主な建設改良費

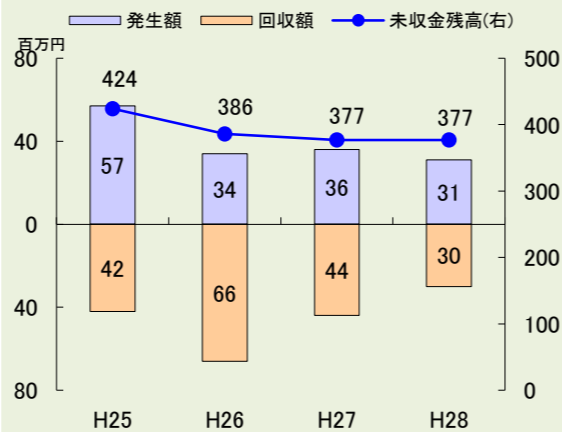
- 【中央】
ナースコール及び院内PHS設備改修工事[H27-28債務負担]
医療用水製造装置更新工事
5階西病棟無菌病室化工事
定位脳放射線治療装置(ガンナイフ)[H28-29債務負担]
- 【新庄】
C棟VCB更新工事
AB棟ナーステーションエアコン更新工事
多項目自動血球分析装置
- 【河北】
整形外科外来診察室間仕切り改修工事
外来2階トイレ及び車椅子トイレ改修工事
磁気共鳴断層撮影装置(MRI)
- 【こころ】
水路改修工事測量設計業務委託
総合医療情報システム整備事業

5 貸借対照表

(単位:百万円)

勘定科目	28年度	27年度	対前年
固定資産 計	33,261	34,817	▲1,556
現金預金	379	351	28
未収金	5,355	5,456	▲101
貸倒引当金	▲49	▲50	1
貯蔵品	156	157	▲1
その他流動資産	0	0	0
流動資産 計	5,841	5,914	▲73
資産 合計	39,102	40,731	▲1,629
企業債	27,157	28,627	▲1,470
リース債務	58	44	14
退職給付引当金	14,608	14,259	349
固定負債 計	41,823	42,930	▲1,107
一時借入金	4,000	2,000	2,000
企業債	2,847	3,493	▲646
リース債務	19	12	7
賞与引当金	1,237	1,215	22
未払金等	2,867	3,090	▲223
流動負債 計	10,970	9,810	1,160
繰延収益 計	4,396	4,608	▲212
負債 合計	57,189	57,348	▲159
資本金 計	23,528	23,453	75
剰余金 計	▲41,615	▲40,070	▲1,545
資本 合計	▲18,087	▲16,617	▲1,470
負債資本 合計	39,102	40,731	▲1,629

【参考③】過年度個人医業未収金の状況



【参考④】「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に定める資金不足比率について

H28決算における資金不足比率 3.1%

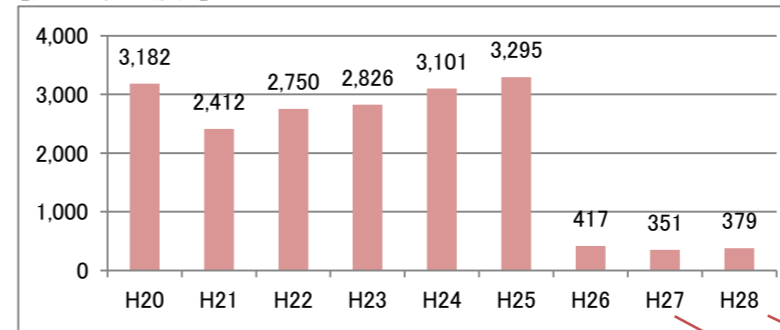
(=資金不足額976百万円(※1) / 決算統計上の医業収益30,895百万円(※2))

※1 資金不足額
流動負債(企業債、リース債務、賞与引当金除く) 6,866百万円
- 流動資産(貸倒引当金の減耗除く) 5,890百万円

※2 決算統計上の医業収益
総務省への報告値
医業収益30,167百万円+地方公営企業法第17条の2第1項第1号経費に係る一般会計繰入金(「救急医療の確保」及び「保健衛生行政事務」に要する経費) 728百万円

6 キャッシュフロー計算書

【資金残高の推移】



(単位:百万円)

	28年度	27年度
期首残高	351	417
業務活動によるCF	▲416	▲538
投資活動によるCF	560	718
財務活動によるCF	▲116	▲246
期末残高	379	351

※24年度の資金残高には、翌年度に繰越した建設改良費約4.3億円の資金を含んでおり、25年度の資金残高には翌年度に繰越した建設改良費約13億円の資金を含む。

H28末に40億円の一時借入

H27末に20億円の一時借入

7 病院ごとの決算概要

(単位:百万円)

		中央		新庄		河北		こころ	
			対前年		対前年		対前年		対前年
総収益	A	22,168	▲476	8,308	5	3,920	▲245	2,790	44
経常収益	C	21,817	▲816	8,304	7	3,915	▲239	2,790	44
医業収益	E	17,988	▲458	7,184	173	3,106	▲132	1,889	132
医業外収益		3,829	▲358	1,120	▲166	809	▲107	901	▲88
特別利益	G	351	340	4	▲2	5	▲6		0
総費用	B	22,310	▲1,123	8,340	29	4,929	2	2,900	▲17
経常費用	D	22,292	▲1,123	8,326	36	4,926	2	2,893	▲17
医業費用	F	21,114	▲1,119	8,101	56	4,778	▲24	2,783	▲15
医業外費用		1,178	▲4	225	▲20	148	26	110	▲2
特別損失	H	18	0	14	▲7	3	0	7	0
医業収支	E-F	▲3,126	661	▲917	117	▲1,672	▲108	▲894	147
経常収支	C-D	▲475	307	▲22	▲29	▲1,011	▲241	▲103	61
特別損益	G-H	333	340	▲10	5	2	▲6	▲4	1
総収支	A-B	▲142	647	▲32	▲24	▲1,009	▲247	▲107	62

中央病院

収益は、DPCⅡ群病院への復帰や地域医療支援病院の承認等により入院診療単価が上昇した一方、患者延数の減少や繰入金金の減少等により、前年比で8億1,600万円減少した。
費用は、給与費や材料費の減等により、前年比で11億2,300万円減少した。
収益の減少を費用の減少が上回り、経常収支は3億700万円改善した。

新庄病院

収益は、患者延数・診療単価の上昇により、入院収益・外来収益ともに増加したが、繰入金金の減少により前年比で700万円の増となった。
費用は、人員増等による給与費の増等により、前年比で3,600万円の増となった。
費用の増加が収益の増加を上回り、経常収支は2,900万円悪化した。

河北病院

収益は、入院・外来ともに患者延数が減少したことや、手術件数の減等により、前年比で2億3,900万円減少した。
費用は、薬品費や診療材料費が減少した一方、給与費や経費が増加し、前年比で200万円増加した。
費用の増加、収益の減少により、経常収支は2億4,100万円悪化した。

こころの医療センター

収益は、患者延数及び診療単価の上昇により入院収益が増加したことなどから、前年比で4,400万円増加した。
費用は、退職給付費の減等により1,700万円減少した。
収益の増加、費用の減少により、経常収支は6,100万円改善した。